

「登場人物・女性2名」

鞠奈

八重

幕が開く。

舞台は鞠奈と八重の部屋。

ベッドが2つ。そのほか、机など生活感のある物を置ければなお良い。

空間は敷物や家具、照明等を用い、部屋として制限する。

ベッドに寝転んで雑誌を見ている鞠奈。

そこへ風呂上がりの八重がやってくる。

八重 あいたよ。

鞠奈 ー。

八重、頭にタオルをのせ、ぼーっと窓の外を見ている。

鞠奈 外に何かいるの？

八重 いや、別に。

鞠奈、ベッドに置いていたタオルとパジャマを手にとって出ていこうとするが、

鞠奈 あのさ。

八重 ？

鞠奈 何かあるなら話聞くから。

八重 ……どうも。

鞠奈、出ていくがすぐ戻ってきて、

鞠奈 座って。

八重 え、

鞠奈 座りなさい。

八重 お風呂は

鞠奈 いいから。

鞠奈、八重をベッド（八重の）に座らせる。

鞠奈は自分のベッドに座り、向き合って話す。

鞠奈 うちら、一応姉妹なんだよ。
八重 うん。
鞠奈 もう半年になる。
八重 5ヵ月。
鞠奈 ……そろそろさ、腹割って話してもいいと思うの。
八重 じゃあ、腹筋しないと。
鞠奈 ……。
八重 腹を割るって。
鞠奈 ああ、そういうことか。
八重 (つまらなそうな顔)
鞠奈 またその顔。
八重 だって。
鞠奈 わかりにくいのよあんたのポケは。
八重 八重。
鞠奈 え？
八重 あんたじゃない。
鞠奈 ……で？ 八重。
八重 はい。
鞠奈 どうしたの。
八重 (両頬を膨らませる)
鞠奈 ふくれっ面しない。
八重 お姉ちゃんぶって。
鞠奈 別にそういうわけじゃないよ。
八重 じゃあどういうわけ？
鞠奈 一応あんたより
八重 (睨む)
鞠奈 八重より、年上だから。
八重 2つだけ。
鞠奈 私は高校生。八重は？
八重 もう、こんな人ばかり。
鞠奈 なに。
八重 人のこと子ども扱いして。何言っても聞いてくれないくせに、命令ばかり。
鞠奈 別に命令してるわけじゃ
八重 してるんだよ。
鞠奈 ただ何があったか知りたいだけ。
八重 知らなくていい。
鞠奈 じゃあしつかりしなさいよ。
八重 してるし。
鞠奈 どころが。
八重 どころかも。

鞠奈 朝起きないし、ご飯もあんまり食べないし、ぼーっとしてるし。

八重 それは、テストのせいだし。

鞠奈 違う。

八重 なんでそんな言い切れるの。

鞠奈 わかんないけど、

八重 わかんないんじゃない。

鞠奈 もう半年も同じ部屋で寝て起きて、ご飯も一緒に食べてるんだから、わかるよ。

八重 まだ5カ月。

鞠奈 充分よ。

八重 おせっかいだなあ。

鞠奈 嫌でも顔を合わせる相手が、ずっとげっそりしてたら気になるのよ。

八重 げっそりしてる？

鞠奈 してる。

八重 うう。

鞠奈 体重どうなの。

八重 プライバシー。

鞠奈 ハッ(一笑)。

八重 教えてくれたら教えてもいいけど。

鞠奈 あー、そう。わかった。もういい。時間の無駄だった。

鞠奈、パジャマだけ持って去る。

八重、鞠奈がタオルを忘れていることに気づき、

手に取って持っついていこうとするが、鞠奈が戻ってくる。

八重はタオルをお尻の下に隠す。

鞠奈 タオル忘れた。

八重 ……。

鞠奈 はい、かして。

八重 質問に答えてくれたら返してもいい。

鞠奈 別のタオル使うし。

鞠奈、部屋から出ていこうとしたところ、

八重が鞠奈の背中に丸めたタオルを投げ当てる。

振り返る鞠奈。

八重 男の子。

鞠奈 なに？

八重 男子と、その、付き合ったこと、ある？

鞠奈、きょんとんとしていたが、

一気に満面の笑みになり、

鞠奈 ちよつとちよつとちよつとー！

鞠奈、八重のベッドに飛び乗る。

八重 わっ。

鞠奈 そういうことならもつと早く言ってくれなきゃ。

八重 ちよつと、ひとのベッドにのぼらないで。

鞠奈、八重に押し出され、自分のベッドに乗る。

鞠奈 同級生？

八重 え？

鞠奈 好きな人、同級生？ 先輩？

八重 先輩いないし。

鞠奈 じゃあ高校生？ えー。

八重 まだ何も言っていないし。

鞠奈 恋の相談なら任せてよ。

八重 面白がってるね。

鞠奈 あのね、恋って化学薬品よ。取り扱い注意。いい薬にもなるし悪い薬にもなる。

八重 したことがあるの？

鞠奈 そりゃあ恋したことない人間がどこにいるの。

八重、自身を指す。

鞠奈 え？

八重 したことない。

鞠奈 今してるんですよ。

八重 わかんない。

鞠奈 どういうことよ。

八重 だから、恋しても恋したことなかったら恋かどうか分かんない。

鞠奈 待って待って。

八重 ……。

鞠奈 じゃあなにか。あれか。そうか。なるほど。

八重 一人で納得しないでよ。

鞠奈 わかった。こうしよう。

八重 どうしよう。

鞠奈 とりあえず、写真ある？

八重 なんの。

鞠奈 だから、思い人の。
八重 やだその言い方なんか気持ち悪い。
鞠奈 じゃあ名前教えてよ。
八重 ……
鞠奈 マサオ？
八重 違う。
鞠奈 ジュンイチ？
八重 違う。
鞠奈 じゃあ
八重 言えない。
鞠奈 なんてえ。
八重 それはもうちょっとあとで。
鞠奈 もったいぶっちゃって。
八重 私が聞きたいことに答えてよ。
鞠奈 なんだっけ。
八重 付き合ったことある？
鞠奈 ……どう思うー？
八重 めんどくさいー。
鞠奈 ちよつとは興味もちなさいよ。
八重 男に縁がなさそう。
鞠奈 どころが。
八重 顔。
鞠奈 えっ。
八重 髪型。
鞠奈 えっ。
八重 喋り方。
鞠奈 ちよつと。
八重 立ち振る舞い。
鞠奈 ストップ。
八重 性格。
鞠奈 おいっ！
八重 言葉遣い。
鞠奈 おだまりっ！
八重 言論の自由を奪うところ。
鞠奈 中傷していいってことじゃないんだからね。
八重 どこがって聞いたのはそっちじゃん。
鞠奈 ストップって言いましたー。
八重 車は急に止まれませんー。
鞠奈 えっ。あんた車だったの？ いやー、気づかなかった。今どきの中学生は車なのかー。
八重 ムキになって。

鞠奈 そっちが屁理屈言ったんじゃん。

八重 本当のことだもん。

鞠奈 本当のことでもね、言わないほうがいいことだってあるのよ。

八重 はー。でた。

鞠奈 なに。

八重 大人の都合のいい理屈。

鞠奈 全部知ることがいいとは限らない。

八重 ハッ（一笑）、浮気とか？

鞠奈 ……あんたね、

八重 私は知って良かったよ。じゃないと納得なんてできなかった。

鞠奈 言っとくけど、私の親は浮気なんてしてないから。

八重 あーそれは良かったね。どうせうちのお父さんとは違うよね。

鞠奈 そういうこと言ってるんじゃ

八重 わかってるよ。

問。

八重 遅いじゃん。口うるさくないし、よく笑ってくれるし、いいお父さんだ。

鞠奈 どうだろ。

八重 いいんだよ。

鞠奈 いて欲しいときにいなかった。調子の悪いお母さんを私に任せて、仕事ばかり……。
今はよくても、もう遅いんだよ。

八重、俯く鞠奈を見る。

鞠奈、目線を外す。

八重、鞠奈のベッドに乗って執拗に目を合わせようとする。

鞠奈 ちょっと、やめ、ねえ戻って。

八重 やっぱ。似てるね。目と鼻のあたりがそっくり。

鞠奈 お父さんと？

八重 うん。

鞠奈 やだよ。

八重 私もお父さん似がよかったなー。

鞠奈 ああ、そう言われると母親似だよね八重は。

八重 そう。

鞠奈 八重のお母さん美人じゃん。

八重 ありがとう。

鞠奈 でも八重が美人ってわけじゃないから。

八重 あっそ。

鞠奈（笑み）うそうそ。可愛いぞ。

八重 気持ち悪いこと言わないで。
鞠奈 学校の男子は寄ってくるか？
八重 こない。
鞠奈 じゃあ片思いか。
八重 まあね。
鞠奈 はつきりわかるの？
八重 そうだね。
鞠奈 確認した？
八重 確認して？
鞠奈 いや、相手に好きな人はいるのか。
八重 まあ、いるんじゃない？
鞠奈 ええー。それどこ情報。
八重 関係筋。
鞠奈 なあによそれ。
八重 だからさ、私が聞きたいのはそうじゃないんだって。
鞠奈 ああ、私は、付き合ったことない。
八重 だよね。
鞠奈 一言多いんだよお前は。
八重 八重。
鞠奈 ……あのさ、人には名前呼べっていう割に、私のこと呼んでくれないよね。
八重 呼んでほしい？
鞠奈 そりゃあね。
八重 へえー。
鞠奈 へえーってあんた。
八重 八重。
鞠奈 ハイハイ八重。
八重 そもそも、誰であれあんまり名前前で呼ばないかも。
鞠奈 そうなの？
八重 「ねえ」とか「あのさ」とか。
鞠奈 でも必要なきときって絶対出てくるでしょ。そのとき呼んでよ。
八重 ……。
鞠奈 嫌なの？
八重 別に、いいけど。
鞠奈 一応さ、気に入ってたんだ。
八重 誰がつけたの？
鞠奈 えー、おじいちゃんかな？ なんか本当は「鞠」だけだったんだけど、
画数的に足りないからって「奈」がついたの。
八重 なにそれ。
鞠奈 適当だよね。
八重 うん。

鞠奈 最初の「鞠」っていうのは、お父さんが選んだらしいけど。
八重 どんな意味？
鞠奈 さあ。
八重 さあって。聞いたほうがいいよ。
鞠奈 八重は自分の知ってるの？
八重 もちろん。
鞠奈 どんな？
八重 新島八重って知ってる？
鞠奈 ー、なんか聞いたことあるようなないような。
八重 昔大河ドラマにもなったんだよ？
鞠奈 歴史苦手なんだよなー。
八重 マジかっこいいから。
鞠奈 その人が名前の由来？
八重 うん。お母さんがね、元々その人が好きらしくて。私も気に入った。
鞠奈 いいね、ちゃんとしてて。
八重 だからさ、そっちも聞いたほうがいいよ。
鞠奈 そっち？
八重 だから、その、
鞠奈 その？
八重 ……あなたも。
鞠奈 鞠奈！
八重 ええー。
鞠奈 ええーじゃないよ。
八重 こっばずかしいー。
鞠奈 私だって最初は八重って呼ぶの大変だったよ。
八重 別に頼んでないのにー。
鞠奈 人に名前の由来聞けまて言っておいて自分は人の
八重 ハイハイわかったよ。呼べばいいんでしょ。
鞠奈 よし。
八重 今度からね。
鞠奈 えー。
八重 それで？
鞠奈 なにが。
八重 付き合ったことがないのはわかった。好きな人はいる？
鞠奈 なんてそんなこと聞くの？
八重 だからさ、恋ってどんなのか知りたいんだよ。
鞠奈 ……。
八重 いる？
鞠奈 (頷く)
八重 わお。

鞠奈 いや、でもね

八重 誰。

鞠奈 ……。

八重 同じ高校？ 同じ学年？

鞠奈 仕方ないなあ。

八重 言ってすっきりしてください。

鞠奈 あんたが聞かなかきゃ言わないんだからね。

八重 相談に乗るしー。

鞠奈 乗られる側でしょ。

八重 まあまあそう言わずに。

鞠奈 ……同級生。

八重 おおー。

鞠奈 同じクラス。

八重 かつこいい？

鞠奈 かつこいい。

八重 やー、顔がニコニコしてて気持ち悪いー。

鞠奈 気持ち悪いって言うな！

八重 やだー。

鞠奈 人は恋をすると気持ち悪くなるんだよ！

八重 そうなの？

鞠奈 鏡みてみなさいよ。

八重 じゃあ自分も見てもよ。

鞠奈 ええ？

2人、それぞれベッドにおいてある手鏡を取って見る。

鞠奈 あー。

八重 んー。

2人 そうだね。

鏡を片付ける。

鞠奈 笑顔が増えるっていいことよ。何より活力が湧いてくる。

八重 それはわかる。

鞠奈 毎日学校へ行くのが楽しみだ。

八重 それはわかんないけど。

鞠奈 だって好きな人に会えるんだよ？

八重 んー。

鞠奈 なに、あんまり会えない人？ ってことはやっぱり卒業した先輩か！

八重 まあ、先輩だね。

鞠奈 え、じゃああれじゃん。うちの高校の可能性も？

八重 それは残念。

鞠奈 あー、なんだ。

八重 面白そうだと思ったよね。

鞠奈 うん。

八重 でも被る可能性もあるんだよ。

鞠奈 被る？

八重 2人が同じ人を好きになってる可能性。

鞠奈 え、え、なに。まさかあんたも藤田くんのこと???

八重 あ。

鞠奈 え？

八重 藤田くんっていうんだー。

鞠奈 え、ねえ、違うよね？

八重 違うよ。

鞠奈 びっくりしたー。

八重 藤田なんていうの？

鞠奈 それは別にいいじゃん。

八重 どんな人？

鞠奈 クラス会長で、みんなから信頼、されてるかな。

八重 真面目なんだ。

鞠奈 まあね。でも運動神経もいいし。面白いよ。

八重 へえ。

鞠奈 笑うと可愛い。顔がくしゃってなるんだ。

八重 どんな感じ？

鞠奈 こう、クシャって。クシャー。

カシャッと携帯で写真を撮る八重。

鞠奈 え。

八重 こんな感じかー。

鞠奈 ちよつと何撮ってんの！

八重 恋する顔。

鞠奈 消してよ気持ち悪いんだからー！

八重 やだー。

鞠奈、八重を追いかけまわす。

鞠奈 そんな気持ち悪いの取っついてどうすんの。

八重 参考資料。

鞠奈 なに馬鹿なことを。

八重に追いつけず、諦める鞠奈。

鞠奈 はあ、すばしっこい奴。

八重 写真持ってる？

鞠奈 なんの。

八重 藤田君の。

鞠奈 まあ、こないだの体育祭で撮ったけど。

八重 見せて。

鞠奈 やだよ。

八重 なんで。

鞠奈 逆になんで見せなきゃなんないのよ。

八重 参考に。

鞠奈 じゃあ取引。

八重 どんな。

鞠奈 八重の好きな人の写真も見せて。

八重 ない。

鞠奈 1枚くらいあるでしょ。

八重 ないの。

鞠奈 せっかく携帯買ってもらったんだから活用しなよ。

八重 じゃあ見せてくれたら、さっきの変顔消すよ。

鞠奈 さっきの別に変顔じゃないし。

八重 手が滑って画像投稿しちゃうかも。

鞠奈 やめてよ。

八重 じゃあ見せて。

鞠奈 ずる賢いなあ。

鞠奈、八重のベッドに座って、

鞠奈 えっとねえ、

鞠奈、嬉しそうな顔。

八重 あのさ、

鞠奈 ん？

八重 見せたかったんでしょ。

鞠奈 いやいや、

八重 溢れ出てるから。

鞠奈、自分の頬をぺちんと叩く。

鞠奈 これ。
八重 どれ。
鞠奈（指して）この人。
八重 へえー。
鞠奈 かつこいいでしょ。
八重 うん。
鞠奈 輝いてる。
八重 眉毛が太くていい。
鞠奈 どこ見てんのよ。
八重 ほんと、クシャットしてる。
鞠奈 可愛いでしょ。
八重 そっかあ。
鞠奈 そうなの。
八重 毎日会うんだ。
鞠奈 毎日会うよ。
八重 ドキドキする？
鞠奈 朝起きてすぐドキドキする。
八重 よく話す？
鞠奈 たまにね。どうってことないけど。
八重 遊びに行ったりしないの？
鞠奈 まあ、そこまではちよっと。
八重 連絡は？
鞠奈 知ってるけど、あんまり。
八重 なんで？
鞠奈 いやあ
八重 応援する。
鞠奈 ……。
八重 私応援するよ。
鞠奈 そりゃありがたいけどさあ。
八重 けど、なに？
鞠奈 自分のペースってのがあるじゃない。急いでほことを仕損じるって。
八重 いつ連絡するの？
鞠奈 そのうち。
八重 本当に好きなの？
鞠奈 ……好きだよ。そうじゃなきゃ、あんなにドキドキしない。
八重 どんな風にドキドキするの？

鞠奈、八重と視線を合わせる。

鞠奈 目なんて合わせられない(背ける)。

八重 なんで？

鞠奈 自信ないし。

八重 なんの？

鞠奈 だって、地味だし。可愛くないし。

八重 卑屈だなあ。

鞠奈 ほかに可愛い子たくさんいるよ。藤田君はモテてる。

八重 藤田君は顔で判断する人なんだ。

鞠奈 いや、そんな人じゃない。

八重 じゃあ大丈夫じゃん。

鞠奈 あのさあ

八重 勇気だせよ(鞠奈の背中を叩く)。彼女いないでしょ？

鞠奈 (頷く) たぶん。

八重 たぶん？

鞠奈 いないって噂。

八重 聞いてみよう。

八重、鞠奈の携帯を取って

鞠奈 ちょっと、なにすんの。

八重 パスコードは？

鞠奈 いきなりなんて言うのよ。

八重 「こんばんは。夜中にごめんね。彼女いる？」

鞠奈 変な奴じゃんー。

八重 インパクト大でしょ。

鞠奈 急すぎて怖いし、あからさま過ぎるよ。

八重 藤田君はいつまでもフリーとは限らないよ。こうしてる間にも、

ほかの人とやりとりしてるかも。進んじゃってるかも。

鞠奈 ……。

八重 今どんな気持ち？

鞠奈 お腹、気持ち悪い。

八重 ずどーんとくる？

鞠奈 ずどーんとくるよ。

八重 やだやだやだって、なる？

鞠奈 やだやだやだってなってるよ！

八重 彼女になった人は、いろんなこと、するんだよ。藤田君と。

鞠奈 ……。

鞠奈、ワナワナし始める。

八重 私たちの知らない所で、ことは着実に進んでる。気づいたときにはもう手遅れ。
鞠奈 手遅れ……。

八重 もう、手は届かない。

鞠奈 やだ。

八重 虚しい夢。

鞠奈 そんな。

八重 孤独な妄想。

鞠奈 (八重から携帯を取る)

八重 指をくわえて見てるのか。

鞠奈 ……いやだ。

八重 じゃあ鍵を開けろ。

鞠奈 (ロックを解除)。

八重 伝えるんだ。

鞠奈 なんて。

八重 知りたいことを聞くんた。

鞠奈 知りたいこと。

八重 好きな人はいますか。

鞠奈 急すぎる。

八重 でも好きになるのは、ふとした一瞬でしょ？

鞠奈 ……八重。

八重 ん？

鞠奈 あんた、私よりよく分かってる。

八重 ……。

鞠奈 私に恋愛なんて無理だー。

鞠奈、ベッドに倒れこむ。

八重 無理なことないよ。

鞠奈 勇気がない。

八重 お酒でも飲む？

鞠奈 飲んで勇気が出るなら飲むけど。

八重 ビール。

八重、取りに行こうとする。

鞠奈 いいよ、ねえ。冗談だって。

八重、ふくれっ面。

鞠奈 八重さあ。どうしたの。

八重 別に。

鞠奈 悩んでると思つたら、急に恋のキューピットになるの？

八重 そうだよ。

鞠奈 変。

八重 ……わかんない。

鞠奈 もしかしてほかにあるの？

八重 なが。

鞠奈 恋愛の相談じゃないの？

八重、携帯の時計を確認し、

八重 お風呂。冷めるよ。

八重、部屋を出ていく。

鞠奈、携帯を見つめて、閉じる。

タオルとパジャマを持って去る。

しばらくの間。

八重が戻ってきて、ベッドの下からアルバムを出す。

ベッドに寝転がってページをめくる。

八重、歌を口ずさむ（歌は自由に設定してください）。

そこへお風呂あがりの鞠奈が入る。

八重、歌をやめる。

鞠奈 それなんて歌？

八重 なが？

鞠奈 今の歌。

八重 さあ。

鞠奈 今度カラオケ行こっか。

八重 ……いいよ。

鞠奈 それはどっちの「いいよ」？

八重 行ってもいいよ（アルバムを閉じる）。

鞠奈 本当は超行きたいくせにー。

八重 別に、先週友だちと行ったし。

鞠奈 ふうん。

問。

鞠奈 何見てるの？

八重 なんだと思う？

鞠奈 お見合い写真？

八重（笑み）ぶ厚すぎ。

鞠奈（笑む）

八重 3人で一緒に作ってたアルバム。写真選んで、印刷して……。

鞠奈 ……。

八重 残してある？ 写真とか。

鞠奈 あるよ、アルバム。

八重 ふうん。

鞠奈 見る？

八重（嫌そうな顔）

鞠奈 嫌ならいいよ。

八重 ううん、見る。

八重、鞠奈のベッドに座る。

鞠奈はベッドの下からアルバムを出す。

鞠奈 赤ちゃんの頃から、小学校の途中までかな。

八重 可愛い。

鞠奈 我ながら可愛いと思う。

八重 やっぱり、目と鼻がそっくり。

鞠奈 そうなんだよねえ。この写真なんてさ、

八重 同じ顔が2つ並んでるー！

鞠奈 これは獅子舞のとき。

八重 かっこいい。

鞠奈 お父さん顔超若い。

八重 うん。

鞠奈 こっちは、3歳かな。お母さんとソリで滑ってさ、このあと転ぶの。

八重 ……。

鞠奈 あっ、こっちは海で、お母さんとさ、お父さんを砂で埋めたの。1日中やって

日焼けがやばかったなー。

八重 楽しそう。

鞠奈 この頃は、まだ平和だったな。

八重 大体、お父さんが写真撮ってるんだね。

鞠奈 うん。カメラが趣味だから。

八重 古いやつ、あるよね。

鞠奈 うん。あれでもよく撮ってた。運動会するときなんてさ、ほかの人がいるのに私だけ撮ろうとして感じ悪くってさ。恥ずかしかったし、確か怒った。それからかな、
なんとなく、反抗期。

八重 反抗期。

鞠奈 八重は？

八重 反抗期？

鞠奈 うん。

八重 私はー、小5かな。お父さんの……お父さんの携帯にイタズラしてたら、女の写真とかが出てきて、私がお母さんに見せた。

鞠奈 ……。

八重 それがきっかけ。

鞠奈 ……そっか。

八重 確かその頃だった。

八重、自分のアルバムを持ってきて見せる。

鞠奈 なにこれ、ホラー映画みたい。

八重 確かに。

鞠奈 でもなんか、私もそんな気持ちだったかも。

八重 綺麗じゃん。

鞠奈 八重ほど、恨むっていうか、憎みきれなかった。お父さんのこと。

八重 ……でもむかつくのはさ、これ、写真に直接マジックで塗り潰してるんじゃないんだよ。

鞠奈 あ、ほんとだ。

八重 (写真を抜き出して)前は本当にむかっていたはずなんだけど。違ったのかな。

鞠奈 どっちもあるんだよ。好きだけど、嫌いって。

八重 ……。

鞠奈 前はって言ったけど、今は？

八重 ……。

鞠奈 全然、答えなくてもいいけど。

八重 今は、なんとも思っていない。

鞠奈 そう？

八重 自分でも不思議。いや、まあ、別に不思議じゃないか……むしろ、

鞠奈 むしろ？

八重 (溜息)まあ、なるべくしてなったんだ。一人っ子だったのが、ふたりっ子になったんだ。

鞠奈 うん。

八重 これでよかったんだよ。

鞠奈 (八重の頭を撫でる)

八重 やめてよ。

鞠奈 可愛いところあるじゃないか。

八重 気持ち悪いよ。

鞠奈 照れるなよー。今日一緒に寝ようか。

八重 ほんとキモいよ。

八重、自分のベッドに戻る。

2人、アルバムを片付ける。

鞠奈 会うことあるの？

八重 ない。会いたくない。

鞠奈 そうだよね。

八重 そっちは会うんでしょ？

鞠奈 まあね。鞠奈はたまに会います。

八重 どんな気持ち？ そっちは。

鞠奈 そうだねー、鞠奈はね、複雑な気持ちですよ鞠奈は。

八重 (笑む) それウケる。

鞠奈 呼ぶまでやるから。

八重 誰が？

鞠奈 鞠奈が。

2人、笑う。

鞠奈 でも正直さー、別れて良かったんだとも思ってる。お母さんは精神的に不安定で、入退院を繰り返してた。お父さんと私、家族との関係が、原因の一つだった。だから、今の距離感のほうが、みんなにとっていいんだと思う。

八重 会いに来たお母さんは、元気？

鞠奈 (笑み) はしゃいでるよ。このあいだなんて、デートみたいだったよ。プラネタリウムなんか見ちゃって。デートだった。

八重 好き同士だ。

鞠奈 うん。

八重 どっちがプラネタリウム見たいって言ったの？

鞠奈 私。

八重 取っとけよー。

鞠奈 ほんとだよね。

八重 藤田君と行っても新鮮味ないよ。

鞠奈 いいよ、初体験のフリするから。

八重 初体験って言い方。

鞠奈 いやいやいや、そういうふうに受け取るほうがおかしいでしょ。

八重 初体験って。

鞠奈 もういいよ、マセてるなあ。

八重 えー。

鞠奈 なに。

八重 こわいよ？ 今どきの中学生。

鞠奈 いいいい、そういう話。

八重 高校生なんでもっとじゃない？

鞠奈 あーあー聞こえない。

八重 藤田君と付き合ったらさ、やっぱりいつかはそういうことに。
鞠奈 ハイ寝るよー。電気消すからねー。

鞠奈、電気の紐を引っ張る。
暗。

八重 ちよっとー。

鞠奈 金曜日だからって夜更かしは駄目。

八重 明日は連絡するんだよ。

鞠奈 おやすみー。

八重 藤田君。

鞠奈 もう、言わなきゃ良かった。

八重 だってー。

鞠奈 自分は名前も教えなくせに。

八重 今は言えない。

鞠奈 なんて。

八重 言えないの。おやすみー。

鞠奈 勝手だな。

しばらくの間。

八重 ねえ。

間。

八重 寝ちゃった？

間。

八重 鞠奈。

鞠奈 なに？

八重 聞こえてたんじゃん。

鞠奈 呼んだね。ついに。

八重 うれしい？

鞠奈 まあ、そこそこ。

八重 (笑み) なんだよそれ。

鞠奈 寝れないの？

八重 ……。

鞠奈 羊数えよっか。羊が

八重 やだ。

鞠奈 じゃあ、お話？

八重 絵本？

鞠奈 即興で、お話をつくる。

八重 そんなことしてたら目がさえちゃいそう。

鞠奈 お父さんがさ、よくやってくれてたんだ。

八重 ふうん。

鞠奈 いつも終わる前に寝ちゃうからラストまで聞いたことないんだよね。

八重 じゃあそっちから。

鞠奈 えー。鞠奈寝れないじゃん。

八重 じゃあターン制にする？

鞠奈 いいね。

八重 はい、そっちから。

鞠奈 ー。昔々ある所に、誰でもすぐに眠らせてしまう絵本がありました。

八重 なんじゃそれ。

鞠奈 続けて。

八重 ー。その絵本の始まりはこうです。昔々ある所に、誰でもすぐに

眠らせてしまう絵本がありました。ハイ。

鞠奈 その絵本の始まりはこうです。昔々ある所に、

2人 誰でもすぐに眠らせてしまう絵本がありました。……おしまい。

八重、電気をつける。

2人、顔を見合わせて

2人 だめじゃん。

八重 先に進まないよ。

鞠奈 新しくない？

八重 羊を数える的な？

鞠奈 無限ループ。

八重 じゃあ同じやつ言うの禁止ね。

鞠奈 わかった。

八重、電気を消す。

鞠奈 どっちから？

八重 じゃあ。昔々あるところに

鞠奈 ねえねえねえ

鞠奈、電気をつける。

鞠奈 それで始まんなきやだめなの？笑っちゃうんだけど。

八重 わかったわかった。えー、遠い遠い未来のお話です。

鞠奈 おっ、いいね。

鞠奈、電気を消す。

八重 ある所にA子が住んでいました。A子には好きな人、B男がいたのですが、そのB男にも好きな人がいました。さてどうしたものか、A子は考えました。ハイ。

鞠奈、電気をつけて

鞠奈 複雑！

八重 そう？

鞠奈 なんでもいいなり韓国ドラマみたいな設定にした？

八重 せっかくなら面白いほうがいいじゃん。

鞠奈 続きが気になって眠れなくなるやつじゃん。

八重 ハイ、もう消して。

鞠奈、消す。

鞠奈 えー。B男の好きな人は誰も知りません。付き合っているのかも定か

ではありませんでした。ハイ。

八重 しかしある日、A子は聞いてしまいました。B男の好きな人は、人妻だと。ハイ。

鞠奈 あのさ、

八重 続けて。

鞠奈 その人妻は、旦那が家にいないので、寂しかったのです。B男との一度の過ちが、すべてを、壊してしまいます。

八重 ……。

鞠奈 フィクションだから。うちのお母さんは浮気なんて絶対しない。

八重 うん。

鞠奈 ……。

八重 A子はその過ちを知って、B男が嫌いになりました。そして、人妻の旦那を好きになりました。優しくて、頼りになる、大人の男性でした。

鞠奈 旦那は仕事に明け暮れていましたが、妻の裏切りによって気づいたのです。自分の愚かさ。ですが、裏切りは許せません。半年後、人妻は人妻でなくなり、旦那は旦那でなくなりました。ただのC子とD男に生まれ変わったのです。

八重 A子とD男は次第に近づき、

鞠奈 愛し合うようになりました。

八重 いいえ、愛し合えません。

鞠奈 どうして。

八重 二人は家族だからです。

鞠奈 家族。

八重 D男には、妻がいたのです。

鞠奈 ストロープ！

鞠奈、電気をつける。

鞠奈（笑む）八重さ、もう話が無茶苦茶になっ……、

八重、顔に布団をかけている。

小さく、泣いているような。

鞠奈 八重？

八重 んー？

鞠奈、八重の布団をめくろうとする。

八重は抵抗する。

八重 なに、やめてよ。

鞠奈 泣いてるの？

八重 泣いてないし。

鞠奈 今のはフィクションだよ。

八重 わかってる。

鞠奈 じゃあなんで泣いてるの？

八重 別に、なんでもない。

鞠奈 何？

八重 寝よう。

鞠奈 ねえ、なんか気持ち悪い。

八重 なんで。

鞠奈 知らない。

八重 関係ないじゃん。

鞠奈 さっきの話、気持ち悪いよ。なんか、変。

八重 ……ごめん。

鞠奈 何が。

八重 鞠奈。

鞠奈 ……。

八重 私、好きな人がいる。

鞠奈 うん。

八重 ……。

鞠奈 それで？

八重 鞠奈、

鞠奈 なに、八重。

八重 私のお母さんと鞠奈のお父さんはさ、結婚、するのかな。

鞠奈 ……
八重 八重と鞠奈はさ、姉妹になるのかな。
鞠奈 ……
八重 私、まだ準備できてない。

鞠奈、八重を抱きしめる。

八重 再婚してないってことは、今度は簡単に別れられるよね。面倒な手続き、要らないよね。
鞠奈 うちら、もう半年、同じ部屋で寝てるし、同じご飯食べて同じお風呂に入ってる。
もし別れても、うちらはもう家族だよ。

八重 ……(首を横に振る)。

鞠奈 ……。

八重 お姉ちゃん。

鞠奈 うん。

八重 私、お父さんが好き。

鞠奈 ……会いに、行けばいいじゃん。八重のお父さん、会いたがってるんでしょ？

八重 違う。違うの。

鞠奈 なにが。

八重 私、鞠奈のお父さんが好き。

鞠奈 ……うちのお父さんも、八重のこと本当の娘だと思って、

八重 それじゃあ嫌なの。

問。

鞠奈 ……え、八重、あんた、

八重 ごめん。

鞠奈 嘘でしょ？

八重 ……。

鞠奈 は？

八重、部屋から走り去っていく。

鞠奈、呆然としている。

しばらくして、鞠奈も部屋を出る。

溶暗。

上手舞台前方に八重が照らされる。

八重 ……どこ行こう……。

八重、とぼとぼと暗闇に消える。

次に、同じ明かりに鞠奈が入ってくる。

鞠奈 八重ー！（辺りを探している）あいつ……（どこへ行ったか考える）。

鞠奈、駆け去る。

暗。

すぐに明。

鞠奈が部屋に帰ってきて、八重の携帯を見る。

鞠奈

パスコード……（八重の誕生日を入力）違うか。（八重の母の誕生日を入力）違う……。

（鞠奈の父の誕生日を入力）……開いた。

鞠奈、八重の携帯の連絡先一覧から八重の父の電話番号を見つける。

鞠奈

……あ、もしもし。あの、夜分すみません。あの、八重のお父さん、ですか？

私、いま八重さんと暮らしてる、鞠奈と言います。半年前から、あ、5カ月前から、きょうだい、やらせてもらってます、一応。一応っていうか、本気っていうか、マジっていうか。本気と書いてマジっていうか……え？ いるんですか？ あっ……あー……そんなですね。良かったです。……あ、いや、今日は二人とも出掛けるので、家にはいません。……はい、そうしてもらえると、助かります。はい、待ってます。

鞠奈、電話を切る。一息ついてゆっくりと上手に去る。暗。

明。

八重が早足でやってきて、無言で布団に潜り込む。

遅れて鞠奈が来る。

鞠奈

ねえ。あんたなんか言うことないわけ？

八重

……。

鞠奈、八重の布団をはぎ取る。

八重、鞠奈を睨み、枕を投げる。

投げ返す鞠奈。

鞠奈

あんたは実のお父さんが恋しいだけでしょ！

八重、鞠奈につかみかかる。

鞠奈

うちのお父さんは、うちのお母さんのもんだから！

八重

はあっ？

鞠奈

うちのお父さんは、あんたのもんでも、あんたのお母さんのでも私のでもない、

私のお母さんのもんなんだよ！

八重 意味わかんないキモい！
鞠奈 お前のほうがキモい！
八重 もう……みんなキモい！
鞠奈 そうだよ、みんなキモいよ！

2人、ベッドに倒れ込む。

八重 もうやだ。

鞠奈 どうすりゃいいのよ。

八重 なんて、こんなことになんなきゃいけないの？

鞠奈 知らないよ、なりたくてなったんじゃない。

八重 私だってこれまで一人っ子で自由にやってきたのに。

鞠奈 いきなり2人部屋でどれだけ気つかってると思ってる。

八重 私だって。

鞠奈 あんた使ったもの置きっぱなしで片付けないし、風呂はいつもあんたが先！

八重 ここはそっちの家だから、箸もコップも、椅子も机も、冷蔵庫も洗濯機もカーテンもエアコンも、匂いも空気も全部みんな私のものじゃないんだよ。お母さんさえ他所んちのお母さんみたいになりやがって。あんたんちのお母さんみたいになりやがって。あんたが、いいものみんな取っていつちやあって……いくところが、ない。

問。

鞠奈 私だって、私だって侵略者が来て怖いんだよ。乗っ取られそうで怖いんだよ。でも仲良くしなきゃあの2人が駄目になるんだよ。私たちが、仲良くしなきゃ。

八重 ……無理やり？

鞠奈 きょうだいてって、喧嘩するもんじゃない？

八重 知らない。

鞠奈 佳代ちゃん、妹の腕折ったって。

八重 誰。

鞠奈 うちのクラスの、佳代ちゃん。4人きょうだい。

八重 DVじゃん……。

鞠奈 でも、週末にいつも出かけてるって。家族そろって。

八重 ……なんかキモい。

鞠奈 ……キモいね。

八重 でも、

鞠奈 でも、

問。

八重 大人は勝手だ。

鞠奈 大人は無責任だ。

八重 大人は偉そうだ。

鞠奈 大人は、

八重 ……。

鞠奈 ……。

八重 なに。

鞠奈 ……私、来年受験生だよ。

八重 ……。

鞠奈 県外、行くよ。あと1年ちよつとで。

八重 だから？

鞠奈 あんた、やっついていける？

八重 なにそれ。意味わかんない。

鞠奈 私はあんたがいて良かったかもしれない。同じ立場の子がいて、

救われたところもあったかも。

八重 ……。

鞠奈 あんたは私より繊細だから、

八重 八重！

鞠奈 ……。

八重 私は八重だ。

鞠奈 ……八重。

鞠奈、八重の肩に触れようとする。

鞠奈 ねえ。

八重 やだ、触んな。

八重、部屋の隅で丸くなる。

問。

鞠奈、携帯でその様子を動画で撮り始める。

鞠奈 はーい、いま夜の十一時半です。さっき、初めての姉妹喧嘩をしましたー。原因は、

お互いの親が再婚だからです。丸まってる妹に話を聞いてみたいと思います。現場の

八重さーん。

八重 頭おかしくなったんじゃない!?

八重、ベッドの下に潜り込む。

鞠奈 おーっと。八重ちゃん、ベッドの下に潜り込みました。どんな気分ですかー？

八重 さいっあく!

鞠奈 最悪だそうですねー。では私も最悪な気分になってみましょーう。

鞠奈も自分のベッドの下に潜り込む。
間。

突然静かになったので、顔を出す八重。

八重 ねえ。なんで急に黙ったの……ねえ。

鞠奈 ああ……ひんやりしてますねえー（涙声）。

八重 ……。

八重もベッドの下に戻る。

鞠奈 ひんやりして、気持ちがいい。真っ暗で、せまーい。

八重 ひんやりして、気持ちがいい。真っ暗で、せまーい。

2つのベッドの下から、2人の泣き声が響く。

溶暗。

目覚まし時計の音。

溶明。

舞台には誰もいないように見えるが、ベッドの下から手が出る。
手は鞠奈のものだ。

鞠奈、寝ぼけながら目覚ましを止める。

再びベッドの下に入ろうとするが、今度は八重の目覚ましが鳴る。

しかし八重は無反応。

鞠奈、仕方なく八重を引きずり出す。

八重 とめといてよー。

鞠奈 自分でやれー。

鞠奈、ベッドの下に潜らず、床で寝る。

八重、よろよろ立ち上がり、目覚ましを止める。

八重も床に転がる。

八重 今日土曜日だよ。

鞠奈 自分だっかけてたんじゃない。

八重（あくび）二度寝だー。

つられて鞠奈もあくび。

鞠奈 今日絶対目え腫れてる。

八重 いつも腫れてるようなんじゃない。

鞠奈 あん？

八重 特に朝は顔が2倍に。

鞠奈 髪の毛死んでる人に言われたくねえ！

八重 はあー？ 最低なんだけど。

鞠奈 あんたも最低じゃん。

八重 八重。

鞠奈 鞠奈。

問。

八重 鞠奈。

鞠奈 八重。

八重 ふっ、キモい。

鞠奈 次はお姉ちゃんって呼んで。

八重 調子に乗るんじゃない。

八重、鞠奈にデコピン。

鞠奈 いっつ。姉に向かってなんてことを。

鞠奈、枕を探して八重に投げる。

八重 へなちよこ。

鞠奈 あーだめだ。眠い。

鞠奈、あくび。

つられて八重もあくび。

床でダラダラする2人。

八重、再び歌を口ずさむ。

鞠奈 それなんなの？

八重 ……お父さんが、よく聴いてた歌。

鞠奈 ふうん。

鞠奈、八重の歌をしばらく聴いて、
携帯で調べ始める。

鞠奈 昔の歌だね。

八重 歌詞出てる？

鞠奈 うん。

歌（音響）が流れる。

2人、うつ伏せに寄り添い、携帯を覗き込んで一緒に歌詞を見る。
途中から一緒に歌い始める。

2人の表情には微笑みが見える。
行き先は、明るい。

—幕—